

シーン4

セックスしないと出れない部屋の二人

ユリアーナ姫 「先ほども約束通り、一度満足していただけたら開放してくれましたね。こちらの触手さん達はとっっても紳士で……あ」

アンナ 「っく、姫様は私の後ろへ！ 触手が無限に湧いてきます……っ」  
ユリアーナ姫 「あ……アン」

アンナ 「姫様、いま忙しいのでっ、この変態触手どもめっ！」  
ユリアーナ姫 「いえ、ですからあちらの壁に」

アンナ 「ベッドと、イボまみれのアイテム……『セックスしないと出られない部屋』!? ふ、ふざけて……まさか」

ユリアーナ姫 「はい、真実のようです。触手さん達もベッドのそばまでは寄ってこないようですし」

アンナ 「しかし、あ、相手が……くう、仕方ありませんここは私が……」

アンナ 「って、お前らさっきまであれだけ捕まえようとしてたのに!？」

ユリアーナ姫 「条件には触手さん相手ではだめなようです。このアイテム、ふたなり化するためのデイルドでアンと、その、私がですね……」

アンナ 「ふた、なり？」

ユリアーナ姫 「おちんちん様を生やした女性を指す言葉ですね」

アンナ 「おちっ!？」

ユリアーナ姫 「男性器の……」

アンナ 「わ、わかってます！」

ユリアーナ姫 「触手さんのおちんちんとは形がちょっと違いますね。太さは同じくらい巨根というものですね……人間の男性の方のおちんちんを模してるのでしょうか？」

アンナ 「し、しりません!? 姫様、そんな卑猥なものをもっては!？」

ユリアーナ姫 「でも、セックスしませんが出れないわけですから」

アンナ 「でしたら、私がつ！」

ユリアーナ姫 「ええっと、落ち着きましょう。私の騎士。それはそれで構わないのですが、アンの頑張りを見守るようでお勧めはしませんよ？」

アンナ 「うう、姫様の純潔は守らないと……あ」

ユリアーナ姫 「ん、ひゃっ……先ほどの触手さんの感触に比べたら、ん♡、かわいいもですわね……ふふ、おっきなおちんちんが生えちゃいました。んあ、感覚までつながって」

ユリアーナ姫 「大丈夫、優しくしますから」

アンナ 「え、えっ、姫様!？」

ユリアーナ姫 「王宮で旦那様との夜伽の教えはノーマルなものから少々マニアックなものまで受けてますので、私に任せていただければ」

アンナ 「ひゃ、よ、よろいは自分で脱げましゅから……」

ユリアーナ姫 「くすっ。緊張するなら目を閉じていてくださいな」

アンナ 「う……ですが姫様にお手を煩わせ……んむっ？」

ユリアーナ姫 「チュッ。口では拒んでも、素直に目を閉じてくれましたね♡ はあむ：

…可愛いアン♡……まずは、この大きなおっぱいから愛撫しますよ♡」

アンナ 「胸……はあっ、ああ♡」

ユリアーナ姫 「触手さん達が弄んでたのちよっと羨ましかったのですのよ？ こんなに柔らかくて敏感で触れる度にピクピクするの♡ツン、ツン♡」

アンナ 「ひうつ、ん、あ、あっ姫様!？」

ユリアーナ姫 「んふ、乳首を少し弄んだだけですのに、アンのお口、もうこんなに濡れて……クリトリス。私もクリトリスは自慰で弄っちゃうの大好きなのですよ。クニユ、クニユ♡」

アンナ 「ん、あああ♡ 姫様、もうお許しを……お指が濡れてしまいますっ」

ユリアーナ姫 「んふっ♡ アンったら、そんな切なそうな表情されたら私。ああ、ふたなりチンポさんがこんなに硬くなりましたね。お汁もよだれのように、ちよっとハシタナイですが私も我慢できそうにないです」

ユリアーナ姫 「ああ、おちんちんの先だとまた違った趣で、とっても興奮しちゃいますね♡」

アンナ 「あ、あ♡……」

ユリアーナ姫 「はあっ、はあ……くすっ。私のおちんちん情熱的な瞳で♡ チュッ♡  
男性器を見せつけられて、アンも期待してますの？」

アンナ 「わ、私は姫様の騎士。ですから、ふぁっ♡ この身は既に姫様の……」

ユリアーナ姫 「ダメですよアン」

アンナ 「んひゃっ?! ひ、姫様!？」

ユリアーナ姫 「もう、せっかくの初めてなんですから、もっとロマンチックにいかなくては。こうなったら私のおちんちんでしっかり溶かしてあげます、からっ!」

アンナ 「んあっ、あ、ああ♡ ひ、ひましゃまのおちんちんがっ?! 私の中に♡ んひい!?! おっきい♡♡!？」

ユリアーナ姫 「あはっ、アンの中ヌルヌルで私のおチンポ、ずっぽり入ってしまいましたわね。さすが私の騎士です。名前も読んでいただきたいですがそれはおいおいでしょうか。それ、で、は♡」

アンナ 「あ、あっ♡ 姫ひゃまあのおちんちん入って?! はひっ、んあ♡♡♡」

ユリアーナ姫 「アンの中ぎゅって私のふたなりチンポ締め付けてるのわかりますわ♡ んんっ♡ おっぱいに顔をうずめながらおちんちんで女の子を責め立てるの。癖になってしまっそうですね♡」

アンナ 「あ、あ、全部来りゅ♡ こんなに大きなオチンポがあ♡ あ、あ、姫ひゃま♡ らめ、怖い♡ 気持ち良すぎて怖いれひゅ♡ ああっ、んはあっ♡」

ユリアーナ姫 「だあ、めっ♡ これで最後……ん、つくうッ♡ つはあっ、あああ♡ あた、った……一番奥、素敵♡ アンのおマンコって本当にふわトロです、ねえ♡」

アンナ 「んっ、やああんっ♡ ん♡♡ んっふうっ♡」

ユリアーナ姫 「ん？ ふふ♡ アンったら…ふたなりチンポで突かれるたびにかわいい声で喘いちゃって♡」

アンナ 「んああっ♡ んんっ♡ あ、あ♡♡♡」

ユリアーナ姫 「夜伽で殿方のものを喜ばすためにはっ♡ こうして、挿入を繰り返すおちんちんを中はやさしくぎゅっ♡と締め付けてあげて、んあ♡ さすが私の騎士、はあ、はあっ♡ とっても素敵に締め付けです♡」

アンナ 「んんっ♡!? こん、つな。んあっ、へ、部屋のおっ、条件はせ、せつくしゅするだけでっ、んあっ、こ、こんな激しく、されないでもお♡♡♡!?」

ユリアーナ姫 「まあ…：アンの本気声、いやらしい♡ こんなの聞かされては♡ ごめんなさい。無理ですわ。ふたなりチンポ止まりませんっ、んうっ、喜ばせてあげたいって♡ あ、あん♡ も、っとお♡♡♡」

アンナ 「あああっ!? ああっ、つく…：ううううっ」

ユリアーナ姫 「チュっ♡ 声は我慢しないで？ 恥ずかしながらに喘いでください♡ 女の子の嬌声は殿方を喜ばすのは重要なことなのですよ？ それに、そこで見ている触手さん達に見せつけてあげましょう」

アンナ 「あああっ♡ 姫ひゃまそこっはあ♡ 何これ気持ちひいっ、こんなの初めて!? ああんっ♡」

ユリアーナ姫 「触手さんのように数はないですが、おちんちんを喜ばす方法は沢山教えていただきましたもの。もちろん、女子が感じてしまうところも♡」

ユリアーナ姫 「はあっ、ああっ♡ アンが蜜穴が気持ちいいです♡ 私の童貞おちんちん……んう♡ ミルクをぴゅっぴゅしたいと、膨らんできていますよ？ セックスするためですから、いいですよ。いっぱい、いっぱい出してあげますから♡♡♡」

アンナ 「ミル、ク？ んあっ♡ ああ、ああ♡ オマンコでこすこすされひゃらわりやし、い、いくっ、いっっちやいます——っ♡♡♡」

ユリアーナ姫 「ああっ、奥に突き入れたふたなりチンポ、必死に離さないように締め付けて……ん♡ 私も達しちゃいますね。アンの奥に濃ゆーいミルク、ふたなりチンポの精液子種汁、ご馳走して上げます♡♡♡……！」

アンナ 「こ、子種汁!? ひゃあっ♡ 姫様!? ああ♡ 抜いてくだっ、んひいひい♡♡!?」

ユリアーナ姫 「はあっ、はあっ♡ ごめんなさい、んんっ♡ もう限界でして、ああ、ふたなりチンポからドロドロのせーし、中で受け取ってくださいね」

アンナ 「ひ、姫様のふたなりおちんぽ!? あ、あ♡ あああ♡♡♡ 触手チンポみたいになっ膨れてえ、射精っ♡ どぴゅどぴゅって♡ 私の中にいっぱいいい♡♡♡♡♡……！」

ユリアーナ姫 「ん♡ 可愛い私の騎士、唇を♡ 子宮に精液を注いでもらったお礼はキスでお返しするのが作法ですよ。れろっ♡ おひんひんピュッ、ピュッ♡ 止まりません♡」

アンナ 「チュッ、ぢゅるるッ♡ んぶっ、んむうう——ッ! ぶ、は!? せえし出りゅううッ♡」

ユリアーナ姫 「ああッ♡ ふたなりちんぼ、射精♡ 殿方が達するのってこんなに気持ちいいものなんですネ♡ アンのおマンコっ、ああ♡ ヒダヒダの間にまで私のドロドロの精液で満たしてあげたい♡」

アンナ 「んんんッ!! あ、あ、姫ひゃまあ♡ 奥で跳ねひゃ…: ああん♡ 私の中、弄くり回されへ、い、イくう♡」

アンナ 「私、姫様の騎士なのに、んあっ♡ ふたなりちんぼ♡ 負けちゃ♡♡ ひう♡ おマンコ♡ おちんちんに負けて イ、くうっ…: ああああああ——ッ♡」

ユリアーナ姫 「アンのおマンコお汁いっぱい私で私のふたなりチンポ搾り取ってっ♡ んん♡♡♡ 私も最後におちんぼの精液、全部射精してっ♡ 果てちゃいます♡♡♡♡!!!」

アンナ 「あひっ♡…: はあ、はあ♡…: しゅ、しゅみません姫様。私、姫様を守るための騎士なのに…:」

ユリアーナ姫 「ふふふ、大丈夫ですよ私の騎士。アンはしっかり仕えてくれます。ん♡ あら、どうしましょう…: 私の騎士のけなげな表情を見てたら♡ 全部出したと思いましたがまた勃起してしまいました…:♡」

アンナ 「ひゃっ♡ ひ、姫様!?! あ、あの…: アンは姫様にお仕える騎士で…: その、姫様の命には命を懸ける所存で、あうあう、そのですね…: んひっ!?! 連続は体がもちません!?!」

ユリアーナ姫 「ごめんなさい、ごめんなさい♡…: ああっ♡ けれど我慢できなかつたのっ♡ アンったら頼もしいのに、可愛らしくて…: もう一回だけですから♡」

アンナ 「あ、ああ♡、ダメ♡ イった直後でえ♡ 私の中敏感になってっんん!?？」  
ユリアーナ姫 「んっ、ふふ♡ 口ではそんなこと言って私の騎士のおマンコっ、ふたなりチンポをぎゅっと締め付けてますよ♡ 主思いの可愛い私のアン……♡」

アンナ 「んくうっ、おちんぼしゅごいの!? ああ、ダメです♡ これ以上はおちんぼ覚えちゃう♡!? 私、姫様の騎士なのに♡ おちんちんに負け癖ついた淫乱騎士になっちゃう♡♡♡」

ユリアーナ姫 「あは♡ 私の騎士、いいですよ♡ 夜は私だけの……あら、触手さんが……」

アンナ 「え!? っく、油断した。姫様、んひ!?」

ユリアーナ姫 「大丈夫です、よ♡ 触手さん達は、あんっ、我慢できなくて混じりたいだけ……今回は手伝っていたただけだそうですから♡ だから、ね? アンは可愛いオマンコに集中しててください……んっ、はあ♡ もう一度おちんちんで一緒に気持ちよくなりましょう♡」

アンナ 「んあああッ!? ああっ、ああんッ♡ あ、あ♡ 姫ひゃまのオチンポが、で、出たり、入ったりい♡ ……ではなくっ! あ、あ、触手ダメ……来ないでっ……あひん♡ ああ、巻き付かれりゅ……ん、ぷッ? ぢゅるるッ♡」

アンナ 「レロレロ♡ ぢゅるっ、ちゅぢゅ♡ ぷはッ! あああ♡ 媚薬ダメえ♡ また口とお尻にいつエッチになっちゃう粘液いっぱい注ぎこんじゃダメ♡」

ユリアーナ姫 「んはあッ♡ ああ、可愛らしい声♡ 触手さんのぬるぬるお汁♡ ふあ、ふふ♡ んあ、んうッ♡ 私も全身塗りこまれて、全身おちんちんになったみたいに敏感に♡……オチンポ触手さんも、手コキをさせるイポイポ触手さんも。お口とアナルを犯すブツブツ触手さんもお♡ 皆さんで一緒に気持ちよくなりましょう♡」

アンナ 「ぢゅるっ、レリュッ♡…： 姫様のオチンポはともかく、ん♡ 触手ごときにっ…： あああっ♡ ぢゅるるっ、ぢゅぷっ、んっぷうッ♡ ああん♡ お尻、オマンコっ♡ 一緒はらめっ、溶けりゅっ♡ れりゅっ、ぢゅるるっ、昇ってきひゃううう♡」  
ユリアーナ姫 「あ、あ、触手さんの粘液♡…： ぢゅむうッ♡ んひゃっ、ああ♡ お尻とお口、同時になんて…： ぢゅりゅッ♡ まあ、手も…： レロレロッ、ぢゅぽあ♡ はあ、ふ♡ う、う、腰が勝手に、アンを犯しちゃう…： れろれる、はあむ♡」

ユリアーナ姫 「ふふっ、んふ♡ アンのおマンコ、中でヒダヒダが触手さんみたいに絡みついて締め付けも最高で、名器と言ってもいいぐらいです♡ ぢゅるっ、んむう♡ 触手さんがお尻で動いてるのわかっちゃう、へこ、へこ♡ へこ、へこ♡ 頭の中を真っ白にして楽しみましょう♡♡♡」

アンナ 「はひい♡ 中で♡！ 私のおマンコとお尻に姫様と触手が♡ 無理!? こんな無理でしゅ!? あひい♡♡♡ おマンコもお尻も別の生き物みたいにおちんちんのみ込んでよろこんでるうう♡♡♡」

ユリアーナ姫 「っ、アンの欲しがりのおマンコさん♡ 精液欲しくてきゅっきゅっっておねだりしてるわ。お尻もお口もあそこにもたくさん注いでもらいましょうね♡ んちゅ♡ アンの体液と粘液にまみれた唇♡ おいしい♡♡」

アンナ 「ぢゅるっ、んむうっ♡ 姫様のお口も…： とってもエッチな味でおいしいです♡」

ユリアーナ姫 「ああ、ああ♡…： ふたなりチンポから大きなのが昇って、きちやいます♡♡♡!? ああ♡ 触手さんも一緒に、ん♡ アン、私の騎士♡ 覚悟、ひて…： 下さいね♡♡♡」

アンナ 「んぐッ!? んつぶうッ♡ ぢゅるるっ、ぢゅぽっ、レロおッ♡ あんッ、あ  
あッ! オマンコ、お尻、オマンコ、お尻♡ ニルニル塗りつけられへりゅ♡ 激  
しっ、いっ♡」

アンナ 「姫様♡ ひめしゃま♡♡♡ 姫様のふたなりチンポで私の中に精液出して  
いただいた時のこと思い出して♡ おなかの奥、キュンって喜んでる変態騎士ですみま  
しえん♡!!」

ユリアーナ姫 「んぐううう——ッ!? んあッ! ぢゅむううッ♡ おひんひんイふうッ  
♡ ぢゅるるッ♡ あ、あ、触手さんそこはあ♡ クリトリスの裏側♡ 全身に電撃は  
しかったみたい♡ ふたなりチンポも喜んで♡ あ、あ、出りゅっ、さっきよりもいっば  
い精液い、いいゅ♡ アン、アン、出ちゃ…あああ——ッ♡」

アンナ 「ぢゅむッ!? んあ、中に…:…んんんっ♡…:…むふうううう——ッ♡♡  
♡!!!」  
アンナ 「あっ、あ、あ、ああん♡ 姫様の出へりゅ♡ おお、オマンコにたっぷり中出  
しひてえっ♡ 私い、騎士なのに、また女の子みたいにいっ♡ 姫様の目の前ではしたな  
く♡ イちゃいますうううっ♡♡♡!!!」

ユリアーナ姫 「んあああ♡ んふっ♡ おちんちん溶けひゃうっ♡ 精液いっばい射精  
して♡ 精液いっばい出してもらって♡ 私もお♡♡♡」

ユリアーナ姫 「んあっ♡ あ、ああ♡ だめ、触手さん…:…今お尻から抜かれちゃうと  
♡♡♡!!」

アンナ 「あ♡ ん、んん♡ あ、ああ♡ 姫しゃま!? お尻の中の精液じえんぶでちゃ  
う!?」

ユリアーナ姫 「んひい♡!? 精液ぶびゅぶびゅ出しながらまたイっちゃー——♡♡♡  
「!?!」

アンナ 「ひあっ♡ んほお♡ あ、ああ♡……」  
ユリアーナ姫 「あ、はあ……あ、ん……ふあ♡ セックス。とっても、気持ちよかったですね。アン♡」